好きなこと



漫画/読書

漫画はドラゴンボール、ハンター×ハンター、寄生獣、Blue Giant等、幅広く愛読し、読書はビジネス書を中心に、生き方と思考を深める本を読み、常に次の一冊を求めています。

キャンプ

独身の時はバイク＋ソロキャンプ、今は家族とのキャンプを楽しんでいます！
キャンプサウナに憧れています。

音楽

趣味でベースを弾いています。学生時代は、バンドも組んでいました！
好きなバンド：QUEEN、Led Zeppelin、Deep Purple、the band apart、The BACK HORN、COCK ROACH etc.
好きなミュージシャン：Keith Jarrett、Jaco Pastorius

ルーツ - 「前鼻」姓について



全国でも珍しい名字「前鼻」
（日本全国で約300人です）

広島城主浅野家より「前鼻」姓をいただいた家臣「前鼻 村七」がご先祖様です

前鼻 村七は北海道に渡り、明治18年に札幌市西区西野の基盤をつくりました

広島村（現在の北広島市）より、米作の種籾を譲り受け、
私のご先祖様は、極寒の札幌の地で初めて水田を開きました



先祖の志を継ぎ、まえはなわたるは、
諦めず挑戦を続けます！

発行責任者：まえはなわたる事務所　　連絡先：wataru.maehana@gmail.com



参政党
sanseito

松戸市政改革委員

まえはな わたる

- 昭和60年生まれ・40歳・松戸市幸田在住・二児の父
- 総合コンサルティングファーム勤務
- 診療放射線技師 / 医学物理士
- 横浜国立大学大学院 博士課程前期修了 修士(工学)

現場を知り、課題を解き、松戸の未来を創る

はじめまして、参政党 松戸市政改革委員の **まえはな わたる** です。
私はこれまで、がん医療の最前線で「病と向き合う方々の大変さ」を、医療機器メーカーでのビジネス経験を通じて「日本市場の脆弱化」を、そして、総合コンサルティングファームで「業務の見直しや人材育成によって組織が劇的に強くなる手応え」を見て感じてきました。
そのすべてに通じるのは、「人を大切にし、現場を変えれば、日本そして地域はもっと強くなれる」という確信です。
二児の父として、子どもたちが、そしてすべての松戸市民の皆さまが、誇りと活力を持って過ごせる松戸を創ります。

日々の活動報告や、イベントの案内はこちら

選挙ドットコム　X　Instagram　LINE

まえはな わたるの経歴　ーバックグラウンドー

医療の最前線、ビジネス、組織改革
3つの現場の経験を、松戸市政に活かします

2024年～現在
コンサルタント

コンサルティング会社で、研究開発、DX/AI活用支援に従事。業務改革の現場に入り、仕組みを変えれば組織は強くなるという手応えを積み重ねてきました。



2017年～2024年
医療機器メーカー

放射線治療機器メーカーにて、医療機器の営業戦略立案と、治療技術の臨床導入支援に従事。医療の最前線とビジネスの両面から日本の医療を見てきました。



2009年～2017年
医療現場

神奈川県のがん専門病院にて、診療放射線技師として放射線治療の臨床業務と、医工学連携の研究に従事。がん医療の最前線で、患者さんと向き合いました。



まえはな わたる 3つの重点政策

子育て・教育環境の充実

■ いじめ・不登校対策/多角的な評価

令和6年度、不登校は小学生430人・中学生665人[1]。増加傾向が続いています。早期発見・早期支援を強化するとともに、学校だけに頼らない多様な学びの場を広げ、子ども一人ひとりに合った学びを支えます。そして、学力だけでなく、部活動や文化・芸術、地域活動など、一人ひとりの得意や努力が正しく評価される、多様な学びと評価の仕組みを目指します。

■ 校舎/遊具などの施設の更新

老朽化した学校施設を「壊れるまで使う」状況から改めます。築60年に迫る校舎や体育館の更新を前倒します。撤去が進む遊具も計画的に更新します。子どもたちが安心して学び、遊べる環境を整えます。

[1] 令和７年度 松戸の教育，松戸市教育委員会

予防医療、がん検診の推進

■ がん検診の推進

がん対策の基本は、症状が出る前の早期発見です。検診の受診率を高めるため、事前登録や申込み手続きを見直し、受診しやすい仕組みへ改革します。医療に関する専門知識を活かし、早期診断・早期治療につながる検診体制を整えます。

■ 予防医療の充実

健康寿命を延ばし、医療費を抑える鍵は「重症化させないこと」です。特定健診の受診促進、生活習慣病の重症化予防、運動・食事・禁煙・口腔ケアを推進。データと医療の知見を活かした、効果の見える予防医療を進めます。

外国人受け入れの適正化

■ 急速な増加を踏まえた実態把握

松戸市の外国人住民は約2.6万人、市民のおよそ19人に1人。2020年からわずか5年で約1.5倍に増えています[2]。人口の推移や地域ごとの状況を継続的に把握し、行政サービスや地域への影響を検証します。

■ 市民生活を基準に受け入れの適正化を

受け入れを前提とするのではなく、市民の暮らしや地域の受け入れ能力を踏まえて考えることが重要です。自治体として課題を整理し、必要な制度改善や受け入れの適正化を進めていきます。

[2] 令和7年度6月末千葉県内在留外国人数，千葉県ホームページ